

## 社団法人心の里親会・奨学会事業報告書

平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで

### 1 文通事業

児童養護施設で生活する子どもたちを励ます目的で、札幌市及びその近隣市町村に所在する児童養護施設の子どもたちと文通し、実施に当たり必要な研修を次のとおり行ないました。

ア) 文通を希望する 8 箇所の児童養護施設の子どもたちと文通しました。文通は、平均、一ヶ月一回の割合で行い、切手代などの必要な経費は当法人が全て負担しました。特に、児童養護施設が遠隔地にあるため、ふだん交流することが困難な櫻ヶ丘学園の子どもたちと、24 年度内に合計 245 回文通を行い、心の交流をしました。

なお、平成 24 年度に文通をした全ての児童養護施設の子どもの実人数 (①)、及び、当法人 (支部別) の文通担当者実人数 (②) は次のとおりでした。

①札幌育児園 6 人、札幌南藻園 2 人、興正学園 34 人、羊ヶ丘養護園 1 人、  
柏葉荘 10 人、ふくじゅ園 4 人、天使の園 9 人、櫻ヶ丘学園 26 人

※ 平成 25 年 3 月 31 日現在の文通児童数 92 人

②石山支部 4 人、白石支部 17 人、月寒支部 5 人、苗穂支部 10 人、藤野支部 12 人、  
北光支部 9 人、幌北支部 10 人、山鼻支部 3 人、ゆき花支部 17 人、リラ支部 2 人、  
その他支部 3 人

※平成 25 年 3 月 31 日現在の文通会員数 92 人

※平成 24 年度内に、新たに開始した会員 15 人、終了した会員 7 人。

### イ) 第 37 回文通会員のつどい開催

文通の現状について話し合い、学ぶため、「第 37 回文通会員のつどい」を、平成 24 年 8 月 30 日、札幌サンプラザで開催しました。会員 55 人、児童養護施設の代表 9 人が参加し、文通の現状や改善について話しあいました。話しあい終了後、会員代表 (7 人) と施設代表 (8 人) とが総括発表を行って成果を分かち合い、その要旨を「心の里親しんぶん第 216 号」に掲載しました。当法人は、会場費等の費用を負担しました。

### 2 施設訪問事業

文通している児童養護施設の行う行事に参加し、子どもたちと一緒にする作業などを通じ交流し、子どもの育成に寄与することを目的とし、「施設訪問事業」を次のとおり行ないました。

(1) 4 月 22 日 興正学園の「新入学を祝う会」に、藤野支部 1 人、山鼻支部 4 人、  
ゆき花会 3 人、リラの会 2 人、合計 10 人が参加。

(2) 6 月 16 日 羊ヶ丘養護園の「家庭塾」に、月寒支部 2 人が参加しました。

(3) 7 月 8 日 羊ヶ丘養護園の「家庭塾」に、月寒支部 2 人が参加しました。

(4) 7 月 14 日 仁木町銀山の櫻ヶ丘学園を、貸切バスで訪問し、会員と子どもたち

が交流しました。

(石山支部 1 人、白石支部 9 人、苗穂支部 6 人、月寒支部 2 人、藤野支部 7 人、北光支部 10 人、幌北支部 1 人、山鼻支部 1 人、ゆき花会 5 人、リラの会 1 人、支部外 1 人、合計 44 人)

- (5) 8 月 25 日 羊ヶ丘養護園の「家庭塾」に月寒支部 2 人が参加しました。
- (6) 9 月 1 日 柏葉荘の園祭「柏葉まつり」に、白石支部から 11 人参加し、フリーマーケット等を行ない、益金全額を施設に寄付しました。
- (7) 9 月 8 日 羊ヶ丘養護園の「園祭」に、月寒支部 9 人が参加しました。
- (8) 9 月 8 日 興正学園の「園祭」に、苗穂支部 4 人、藤野支部 3 人、北光支部 5 人、山鼻支部 2 人、ゆき花会 7 人、リラの会 2 人、合計 23 人が参加しました。
- (9) 9 月 8 日 ふくじゅ園の「園祭」に、苗穂支部 3 人、北光支部 5 人、合計 8 人が参加しました。
- (10) 9 月 16 日 札幌南藻園の「園祭」に、ゆき花会 5 人が参加しました。
- (11) 9 月 22 日 羊ヶ丘養護園の「家庭塾」に月寒支部 2 人が参加しました。
- (12) 9 月 23 日 天使の園の園祭「エンゼル祭」に、幌北支部 14 人が参加しました。
- (13) 9 月 30 日 札幌育児園の「園祭」に、石山支部 9 人、藤野支部 2 人、合計 11 人が参加しました。
- (14) 10 月 6 日 羊ヶ丘養護園の「家庭塾」に月寒支部 2 人が参加しました。
- (15) 10 月 13 日 ふくじゅ園を、苗穂支部 5 人、北光支部 7 人、合計 12 人が訪問し、会員と子どもたちが交流しました。
- (16) 10 月 20 日 羊ヶ丘養護園の「家庭塾」に月寒支部 2 人が参加しました。
- (17) 11 月 23 日 天使の園を、幌北支部 19 人が訪問し、会員と子どもたちが交流しました。
- (18) 12 月 15 日 興正学園の「生活発表会」に、苗穂支部 2 人、藤野支部 2 人、北光支部 6 人、山鼻 7 人、ゆき花会 6 人、リラの会 5 人、合計 28 人が参加しました。
- (19) 12 月 23 日 南藻園の「クリスマス会」に、ゆき花会 3 人が参加しました。
- (20) 12 月 23 日 天使の園の「クリスマス会」に、幌北支部 13 人が参加しました。
- (21) 12 月 23 日 ふくじゅ園の「キャンドル礼拝」に、苗穂支部 3 人、北光支部 9 人、合計 12 人が参加しました。
- (22) 3 月 9 日 南藻園の「卒園を祝う会」にゆき花会 4 人が参加しました。
- (23) 3 月 14 日羊ヶ丘養護園の「入学祝」に月寒支部 3 人が参加しました。
- (24) 3 月 16 日ふくじゅ園の「卒園式・退園式」に、苗穂支部 4 人、北光支部 4 人、1 合計 8 人が参加しました。
- (25) 3 月 21 日柏葉荘の「入学祝」に、白石支部 5 人が参加しました。

(26) 3月24日天使の園の「卒園式・退園式」に幌北支部14人が参加しました。

### 3 家庭実習事業

文通している子どもが、次のとおり会員宅にホームステイし、家庭実習をしました。

8月 1人2日間      12月 1人1日間

### 4 児童養護施設児童の絵画展及び書道展並びに作文コンクール開催事業

この事業は、文通している児童養護施設の子どもたちがこの作品展に応募し、作品を制作したり作文を書くために努力し考えることによって、子どもたちが自分の資質を伸ばしていくことを目的として行います。また、開催する展覧会で、多くの市民に子どもの作品を鑑賞してもらい、児童福祉や、子どもの教育について考える機会になることを目的としています。

平成24年度はこの事業を次のとおり行いました。

#### ア) 募集と応募

平成24年8月20日、文通している児童養護施設宛に、「第49回絵画展及び第36回書道展並びに第30回作文コンクール」を開催すること及びその応募方法を文書で通知し、次のとおり、子どもたちから応募がありました。

①絵画展 札幌育児園(12人)、札幌南藻園(10人)、興正学園(10人)、羊ヶ丘養護園(10人)、柏葉荘(10人)、ふくじゅ園(10人)、天使の園(8人)、櫻ヶ丘学園(10人)      合計 80人

②書道展 札幌育児園(5人)、札幌南藻園(1人)、興正学園(5人)、羊ヶ丘養護園(5人)、柏葉荘(4人)、ふくじゅ園(5人)、天使の園(4人)、櫻ヶ丘学園(5人)      合計 34人

#### ③作文コンクール

札幌育児園(5人)、柏葉荘(3人)、ふくじゅ園(1人)、櫻ヶ丘学園(5人)      合計 14人

#### イ) 審査会を次のとおり開催し、応募作品の中から優秀作品を選びました。

①絵画展 平成24年10月17日、審査を角力山旭氏にお願いし、北海道知事賞ほか23点の優秀作品を選考しました。

②書道展 平成24年10月12日、審査を大上凌胡氏にお願いし、北海道知事賞ほか12点の優秀作品を選考しました。

③作文コンクール 平成24年10月15日、審査を朝倉賢氏にお願いし、心の里親会・奨学会長賞ほか5点の優秀作品を選考しました。

入賞作品に選考された理由を、「表彰式」で講評し、「心の里親しんぶん第216号」に掲載しました。

#### ウ) 「絵画」及び「書」の展覧会を、次のとおり開催しました。

①平成24年10月29日から31日 北海道庁1階で(入賞作品のみ)

②平成24年11月1日から6日 札幌市地下街オーロラタウンで(全作品)

二千人以上の市民が鑑賞しました。展覧会開催を通じ、多数の市民から、当法人の活動や児童養護施設のことについて、問い合わせがありました。

#### エ) 表彰式開催

入賞作品の表彰式を、11月17日(土)、札幌サンプラザで開催しました。この事業の後援者(北海道及び札幌市の代表者)及び当法人の役員が、入賞した子どもたち一人一人に、賞状と楯を渡しました。表彰式には111人が参加し、喜びを分かちあいました。なお、応募した子どもたち全員に、この事業の協賛企業と当法人が参加賞を贈り、会場費等の必要な費用は当法人が負担しました。

### 5 奨学金給与事業

当法人は、文通している児童養護施設で生活し、高等学校等で修学する子どもたちに、奨学金を給与しています。これは、子どもたちが、修学に際して負う経済的負担を軽減し、勉強や学校の活動に励み、将来を担う立派な社会人として巣立ってもらうためです。平成24年度は、この事業を、次のとおり行いました。

#### ア) 奨学生募集

平成24年3月に、「児童養護施設代表との話し合い」を行ない、平成24年度の奨学生募集内容を説明し、奨学生申請書ほか応募に必要な書類を配付しました。5月21日に応募を締め切り、90人の申請がありました。

#### イ) 奨学生選考

6月5日、当法人事務局で、奨学金選考委員会を開催し、選考委員は申請者全員の提出書類を精査し、協議しました。その結果、申請者全員が、当法人の奨学生になることが相応しい者と認め、理事会に推薦しました。

#### ウ) 奨学生認定

奨学生選考委員会は、6月8日に開催された「平成24年第2回理事会」に、奨学生認定に必要な資料を提出し、理事会は、これを承認しました。

奨学生になった学生の、学校種別(①)及び学年別(②)、は次のとおりです。

①普通科 62人、高等養護学校 28人、

②1学年(新規) 30人、2学年31人(継続)、3学年 29人(継続)

#### エ) 奨学生認定式・奨学金授与式開催

6月16日、札幌サンプラザで、平成24年度に初めて奨学生に認定された、札幌市内及び北広島市にある児童養護施設の学生を対象に、「奨学生認定式・奨学金授与式」を開催しました。奨学生20人及び当法人役員並びに児童養護施設代表が集い、会長訓示の後、奨学生一人ずつ、認定書を交付し、第一期奨学金を給与しました。櫻ヶ丘学園は、遠隔地(仁木町銀山)に所在するため、別にこの事業を開催しました。7月14日、当法人の役員が同施設を訪問し、奨学生全員(17人)に、認定書を交付し、第一期奨学金を給与しました。会場費等の必要な費用は当法人が負担しました。

#### オ) 奨学生の中途採用と辞退

ふくじゅ園から、9月に入所した高校生2人に係る奨学生申請があり、11月27日に選考委員会で審議し、12月11日の理事会で推薦した。審議の結果、申請者2人共、当法人の奨学生として認定した。また、奨学生が児童養護施設から退所等の理由により、次のとおり、奨学生辞退がありました。

- ① 6月 櫻ヶ丘学園 1人、
- ② 7月 ふくじゅ園 2人、
- ③ 8月 札幌南藻園 1人
- ④12月 興正学園 1人、 ふくじゅ園 1人、 羊ヶ丘養護園 1人、  
札幌育児園 1人
- ⑤ 1月 柏葉荘 1人 (合計 9人)

#### カ) 奨学金給与

奨学金（年間一人4万5千円）を、三期に分割し、役員立会いの下、当法人事務局に於いて、奨学生に給与しました。給与した期日等は次のとおりです。

なお、奨学金は、全額、当法人が負担しました。

- ① 第一期給与 6月29日（17人）、30日（35人）
- ② 第二期給与 6月29日（42人）、30日（44人）
- ③ 第三期給与 1月25日（17人）、26日（66人）

給与した延人数 258人 給与総額 389万6250円

#### 6 第51回心の里親フェア開催事業

児童福祉問題を社会に訴え、当法人が児童養護施設を対象に展開している活動を広く知らせ支援をお願いするために、次のとおり本事業を行ないました。5月15日、午前10時から12時までの2時間、札幌市民ホールで開催し、来場者に、当法人の活動趣旨を広報し（趣意書・ポスター・チラシを配布）、合わせてバザーを開催しました。バザーは、会員が支部ごとに、販売品収集や値付け等の準備作業を協力して行い、開催日は、会員110人が参加しました。当法人は、会場費等の必要な費用を負担しました。

#### 7 クリスマスプレゼント寄贈事業

当法人が、毎年クリスマスの頃、児童養護施設の子どもたちが必要な品物を寄贈する「クリスマスプレゼント」を、平成24年度も実施しました。11月末、児童養護施設が必要としている品物を調査、1施設につき3万円の予算で寄贈しました。寄贈先と内容は次のとおりです。

- ①札幌育児園 「Wii ゲームソフト」
- ②札幌南藻園 「鉛筆削り、ドライヤー、DVD、絵本」
- ③興正学園 「旅行用の大きなバッグ」
- ④羊ヶ丘養護園 「ボードゲーム、雪遊び用品」

- ⑤柏葉荘 「アニメや映画の DVD」
- ⑥ふくじゅ園 「小学生向け DVD、複数人で楽しめる玩具」
- ⑦天使の園 「ピクニックテーブル」
- ⑧櫻ヶ丘学園 「Wii ゲームソフト、お風呂玩具セット」

これらの費用は、すべて当法人が負担しました。

#### 8 新年事業報告会・交流会開催事業

当法人の支援企業及び当法人の活動に関心がある一般の人たちに、当法人が平成 24 年に行った活動を報告し、交流会をもち意見を交換しました。平成 25 年 1 月 22 日、札幌サンプラザで開催し、112 人が集い、「本部」・「白石支部」・「北光支部」の 3 者が、それぞれ活動報告を行ないました。

#### 9 第 51 回新しい出発を励ます会開催事業

文通から始まる当法人の支援活動は、奨学金給与や施設訪問活動等を行い、高等学校卒業で終了します。高等学校等を卒業し、児童養護施設から就職・進学し、新しい出発をする子ども（卒業の日まで、この法人の奨学生であった者）を対象に、毎年 2 月「新しい出発を励ます会」を開催し、児童のこれまでの苦労と努力を讃え、門出を祝福・激励します。

ア)平成 25 年 2 月 23 日、札幌サンプラザでこの会を開催しました。卒業生 23 人と会員等 82 人が参加しました。来賓の励まし言葉、卒業生と文通していた会員との交流等のプログラムが和やかに行われ、卒業生が今後の決意と本会へのお礼の言葉を述べました。当法人は、開催に要した、会場費等の費用を負担しました。

#### イ) 生活必需品寄贈

卒業生 23 人に、新生活を始めるに当たり必要な品物を、当法人及び企業から支援して戴いた品物を寄贈しました。

#### ウ) 卒業支度金給与

児童養護施設からの要請により、平成 19 年度から始まった卒業支度金給与は、高等学校卒業生の支援に役立つ旨、児童養護施設から報告を受けています。

平成 25 年 2 月 23 日、札幌サンプラザで開催した「新しい出発を励ます会」に於いて、卒業する奨学生 23 人に、1 人につき 5 万円、総額 115 万円を給与しました。卒業生代表から、多くの善意の方に支えられ今日の日を迎えることができたこと、そして社会に巣立つことができることを感謝する内容の謝辞がありました。

給与の全額を当法人が負担しました。

#### 10 小学校入学祝寄贈事業

当法人は、毎年、4 月に小学校に入学する児童養護施設の児童に、通学に必要な品物を寄贈しています。平成 25 年 4 月、小学校に入学する児童 35 人に、2 月 28 日、次のとおり寄贈しました。

ア) 寄贈品 ○通学用の靴、○筆入れ、○鉛筆、○消しゴム、○通学用バッグ

イ) 寄贈先 ○札幌育児園 (11 人)、○札幌南藻園 (1 人)、○興正学園 (4 人)、  
○羊ヶ丘養護園 (6 人)、○柏葉荘 (4 人)、  
○天使の園 (5 人)、○櫻ヶ丘学園 (5 人) 合計 36 人

11 心の里親しんぶん発行业

当法人は、会員とこの法人の支援者に活動状況を報告すると共に、関係者以外にも児童福祉問題を知らせ、児童福祉対策の推進に資する目的で、年2回「心の里親しんぶん」を発行しています。平成24年度は、215号(7月23日)、216号(2月10日)を、各号1,300部ずつ発行し、配付しました。印刷代などの発行に要する費用は、当法人が負担しました。

12 福祉協賛札幌夏祭り大通ビアガーデンの前売券販売活動

この法人への支援をお願いするため、この事業を行なっています。平成24年度は、6月1日から7月20日まで趣意書の配付及び前売券販売活動を行ないました。札幌市社会福祉協議会を通じ、アサヒビール株式会社より、収益金の一部300万円を寄附金として受けました(平成25年3月31日)。